

年

組 名前

材1-B-(1)の解答 正負の数の加法

② 『(-5) + 4』の解決のために

$$(-5) + 4 = (-5) + (+4)$$

$$= - (\boxed{5-4})$$

$$= -1$$

異符号の加法の計算では

絶対値の大きいほうから

小さいほうをひき、

絶対値の大きいほうの

符号をつける。**たしかめよう**

次の計算をなさい。

① $(-6) + 4 = (-6) + (+4)$

$= - (6-4)$

$= -2$

② $(-6) + (-4) = - (6+4)$

$= -10$

③ $(-6) - 4 = (-6) + (-4)$

$= -10$

④ $(-6) - (-4) = (-6) + (+4)$

$= - (6-4)$

$= -2$

⑤ $-22 + 35 = 35 - 22$

$= 13$

⑥ $\frac{2}{3} - (-\frac{8}{3}) = \frac{2}{3} + \frac{8}{3}$

$= \frac{10}{3}$

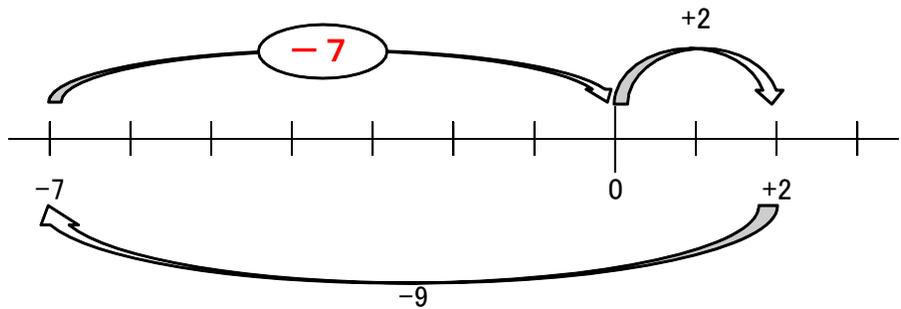
教材1-B-(2)の解答 正負の数の加法

① 『 $(+2) + (-9)$ 』の解決のために

$$\begin{aligned}
 (+2) + (-9) &= -(\boxed{9-2}) \\
 &= -7
 \end{aligned}$$

いふごう
 異符号の計算では、絶対値の大きいほうから
小さい ほうをひき、絶対値の大きいほうの
符号 をつける。

数直線を使って考えると
 $+2$ は正の向きへ2動く
 -9 は負の向きへ9動く



よって、 $(+2) + (-9)$

$$= \boxed{-7}$$

たしかめよう

次の計算をしなさい。

① $(+4) + (-5) = -(\mathbf{5-4})$

$$= \mathbf{-1}$$

② $-18 + 2 = (\mathbf{-18}) + (\mathbf{+2})$

$$= \mathbf{-(18-2)}$$

$$= \mathbf{-16}$$

③ $(+7) + (-9) = -(\mathbf{9-7})$

$$= \mathbf{-2}$$

④ $-14 + (+6) = (\mathbf{-14}) + (\mathbf{+6})$

$$= \mathbf{-(14-6)}$$

$$= \mathbf{-8}$$

④ $-14 + (+6) = \mathbf{-14 + 6}$

$$= \mathbf{-8}$$

教材1-B-(3)の解答

正負の数の加法

① 『(-7) + (+3)』の解決のために

$$\begin{aligned}
 (-7) + (+3) &= - (\boxed{7-3}) \\
 &= -4
 \end{aligned}$$

○異符号の加法の計算では
絶対値の大きい方から
方をひき、

小さい 絶対値の 大きい 方の
符号をつけて

たしかめよう

次の計算をしなさい。

① $-8 + 4 = (\boxed{-8}) + (\boxed{+4})$

$$= - (8 - 4)$$

$$= -4$$

② $5 - 7 = (\boxed{+5}) + (\boxed{-7})$

$$= - (7 - 5)$$

$$= -2$$

③ $-\frac{5}{2} + \frac{7}{3} = (- \frac{15}{6}) + (+ \frac{14}{6})$

$$= - (\frac{15}{6} - \frac{14}{6})$$

$$= - \frac{1}{6}$$

同符号の加法では
絶対値どうしの和
に共通する符号を
つける

最初に通分すると、
絶対値の大小が
わかりやすい

教材1-B-(4)の解答 **正負の数の加法**

① 『(-9) + (+4)』の解決のために

$(-9) + (+4) = -9 + 4$	←かっこをはずす
$= - (\boxed{9 - 4})$	←異符号の加法の計算では絶対値の大きい方から小さい方をひく
$= -5$	←絶対値の大きい方の符号をつける。

たしかめよう

問 次の計算をしなさい。

① $(-9) + (+6) = -9 + 6$
 $= -(9 - 6)$
 $= -3$

② $(+6) + (-3) = 6 - 3$
 $= 3$

③ $(-7) - (+2) = -7 - 2$
 $= -(7 + 2)$
 $= -9$

④ $(+3) - (-3) = 3 + 3$
 $= 6$

⑤ $(-8) + (+8) = -8 + 8$
 $= 0$

⑥ $(-12) - (-21) = -12 + 21$
 $= +(21 - 12)$
 $= 9$

絶対値の大きい方から小さい方をひく

チャレンジ

⑦ $(-\frac{1}{3}) + (-\frac{5}{6})$
 $= -\frac{2}{6} - \frac{5}{6}$
 $= -(\frac{2}{6} + \frac{5}{6})$
 $= -\frac{7}{6}$

最初に通分すると絶対値の大小が分かりやすい

⑧ $(-\frac{3}{4}) - (-\frac{2}{3})$
 $= -\frac{9}{12} + \frac{8}{12}$
 $= -(\frac{9}{12} - \frac{8}{12})$
 $= -\frac{1}{12}$

通分する